

2020年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492600919	事業の開始年月日	平成25年8月1日
		指定年月日	平成25年8月1日
法人名	株式会社エクシオジャパン		
事業所名	アクア淵野辺グループホーム		
所在地	(252-0202) 相模原市中央区淵野辺本町2丁目19番14号		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和2年8月23日	評価結果 市町村受理日	令和3年2月8日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設から7年が経過しました。地域や関係者の方々のごく自然に繋がった安心できるグループホームを目指し継続して運営しています。昨年10月に【もみじ祭り】と題し地域の方にも参加いただけるような催しを行いました。2020年に入りコロナの関係で地域やご家族との関わる頻度が減り苦慮しています。入居者の皆さまが毎日その人らしく笑顔で生活が継続できる様に気づき活動の取り組みを始めました。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和2年9月24日	評価機関 評価決定日	令和2年10月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所はJR横浜線「淵野辺」駅北口を出て県道57号線沿いに北に徒歩17分の所にあります。建物は南欧を感じさせる木造2階建てで背面側は住宅、畑、市民農園など古くから住んでいる人の生活が感じられるそんなたたずまいを残した地域です。

<優れている点>

社是である「実践の決意」をもとに利用者権利擁護指針（コンプライアンスルール）を掲げ、その具体的な課題を毎朝、視点を定めて職員で交代で唱和して確認しながら介護支援に努めています。地域住民の高齢化課題に向けて事業所が地域の認知症介護を相談と発信ができるプロ集団となるよう向上心を持って取り組んでいます。施設におけるヒヤリハット以前の情報を書き易くした「気づきシート」を使い、職員、関係者にオープンにするなど、誰でもが小さな課題、意見が出しやすくなる場づくりにより、事故発生の事前防止に役立てて事故皆無に向けての成果が出てきています。

<工夫点>

コロナ感染防止対策を取りながらも、出来る限りの家族との携帯によるテレビ面談、事務所での敬老パーティ、地域への外出や季節ごとのイベント行事などを制限を設けた中でも工夫して実施し、家族に喜ばれています。「実のりの木」と銘打った掲示物に各種の「してくれてありがとうの思い」をメモにして貼り出し、職員相互の繋がり、支えあいつくりを醸成しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	アクア淵野辺グループホーム
ユニット名	1階ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	実施できています。毎日朝礼で唱和し、職員、管理者ともに実践に繋がられています。	社是をもとに利用者権利擁護方針を掲げ、毎日唱和確認して心に刻み込むことを繰り返し行っています。日々の支援記録にも短期目標が掲げ、その振り返りを行っています。年間を通じての事業計画を立案して介護の質を総合的に高める指針としています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	地域における年中行事への参加、施設行事へのご招待を通して積極的な交流を行っています。また、自治会の活動への参加や回覧板などを利用して、常に開かれた施設として情報提供に努めています。	コロナ対応のため、地域、自治会などの行事などが中止となり、参加は出来ていませんが個別に電話、訪問などをして地域との連携を図り、行事再開時に向けて情報収集を行い、ふるさと祭りなどの準備を進めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	施設パンフレットはすぐに目に入る場所に置き、問い合わせに対してはわかり易い言葉で説明をしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	実施できています。運営推進会議には地域代表を含め幅広い方々との意見交換を行う事を大切に、頂いたご意見をしっかり受け止めて日常の活動に活かしています。2020年に入りコロナウィルス感染拡大防止の観点から書面会議で実施しています。	現在はやむを得ず書面会議を実施しています。施設の状況報告、ヒヤリハット事例、施設内行事の様子を写真などを交えて報告しています。議事録も郵送でなく直に届けて、会議メンバーとの関係性の継続に心を配っています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	問題解決のため、疑問点がある際には福祉基盤課あるいは高齢・障害者相談課の方へご連絡を取り、ご指導を頂いています。生活保護の方は生活支援課と連携を図っています。	地域グループ連絡会など今まで参加して情報を入手していましたが現在は出来ていません。区の福祉基盤課、生活支援課と連携して身寄りの無い人の成年後見の取り組みも進めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	講習会や勉強会へ参加し、学んだ情報や知識は施設内での職員研修会で共有しています。拘束は犯罪であるという認識の下、日々ケアに取り組んでいます。	「気づきシート」を活用して互いに注意しあっています。定期の研修会も開催しています。夜間の転倒防止対策として必要な利用者には家族の同意のもと防止センサーを敷き布団下に置いています。夜間起床時の事前把握により何気ない支援が出来るよう心配りをしながら活用しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止については定期的に施設内研修を行っています。また虐待につながる恐れのある不適切なケアについても施設内で話し合い情報共有できる様努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	支援を必要とされる利用者様の状態やご様子を見過ごしてしまうことのないように、高齢・障害者相談課の担当者の方々へ相談し、昨年からかけ3名の入居者様の成年後見人が決定しました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	難しい内容も包括されているので、誤解を生じない様に納得がいくまでお話しさせて頂いています。また、必要に応じて専門部署の担当より、時間を掛けてご説明しご理解頂けるよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご面会のためお立ち寄り頂いた際あるいは家族会の機会を利用して忌憚ないご意見を伺い、研修・勉強会に反映させて職員共通の認識を持つことに努めています。	家族の面会時や電話での状況報告時に意見を聞いています。「広報淵野辺」を毎月写真付きで発行し家族に送っています。必要によりメモなどを付けて個別の様子も伝えています。要望により100歳敬老パーティーやテレビ面会など工夫を凝らし実施しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のフロアー会議では、前以て全員から意見を寄せてもらい検討をし、リーダー会議に上がった項目については職員へのフィードバックを行っています。常に議事録を開示しています。	公開の原則を基本に必要な情報は職員誰でも見ることが出来ます。「実りの木」「気づきシート」を活用して職員の負担を軽くしながらも大切な情報交換の場づくりをしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者は個々の職員とのコミュニケーションを図り、定期的あるいは必要に応じた面接を行って、職場での問題や不安の解消に努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	テーマを決めた施設内研修は月に一度行っています。また、施設外の研修も本人からの希望があれば可能な限りシフトを調整して参加ができるように配慮しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	管理者はグループホーム連絡会に参加し、相互交流にて得た情報を持ち帰り、リーダー会議を通して職員と共有することに努めております。また、お互いに啓発されることを目指して相互訪問の機会を計画しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面談により状態を把握し、ご本人やご家族の要望などを聞き取りして、ご本人には安心して生活して頂ける様に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族の困っている事や不安に耳を傾け、要望や期待に応えられる様に努めています。また、丁寧な受け答えを心掛け、信頼関係を培うことができる様努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人やご家族との話し合いの中で、先ずどのような支援が必要なのかを見極め、サービス内容の調整を行い、提供できる様に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	支援をしてあげていると云う意識を持たず、家事等を協力し合って行い、他者とも和やかに生活できる様に心掛けています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の面会時にはご様子などを丁寧にお伝えし、また質問にも応じる等、信頼関係を築けるように努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族を通してお話しを伺い、思い出の写真や話題に傾聴するよう、ご本人に合った支援を心掛けています。また、ご家族との外出の機会を支援しています。	家族との面接はコロナ下での三密を避け事務室を活用して家族を交えて敬老パーティを開催したり、家族の携帯電話による面談会など工夫して実施しています。本人家族の許可を受けて日常生活の様子を写真に撮って関係が続くよう努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士の関係性について、スタッフで共有し注意深く見守りを行い、円滑に生活が営めるように努めています。また、個別にお話しを伺い、孤立しない様に支援することを心掛けています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	お手紙やその他の機会をとらえて、ご本人の様子などを伺い、ご家族のお話し相手、ご相談の受け皿になるよう努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の関わりの中で、会話などコミュニケーションを密に取りながら把握に努めています。また、ご家族や関係者からの情報を得る事も大切に受け止めています。	「何もない一日になってほしくない日々」を大事に、思いを丁寧に聞いています。気付きから絶えず働きかけて流動食からもとのミキサー食に戻し、体重増加が出来たり、一寸した立ち上がり動作を大切にして、車椅子から支え介助での自立歩行が可能になった事例があります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人はもとよりご家族の協力を頂きながら、継続的な把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者お一人お一人の生活リズムを大切に、日々変化する状態の把握に努めています。できる事、できない事を正確に理解し、できる事への働きかけに努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人やご家族の思いと意見を正確に聞き取り、職員全体での意見交換やモニタリングを行い、カンファレンスを実施しています。	介護プランの書式として週間計画サービス表、個人記録、支援経過記録、モニタリング実践記録、アセスメントシートなどを活用して細かく日常生活の様子を、職員で把握して支援に努めています。短期目標は6ヶ月、長期目標は1年で見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	職員の気づきやご本人の状態の変化は逐次、個別ケア記録に記載して朝礼や夕礼時に職員間の情報の共有を図り、フロア会議においては意見交換を行って介護計画の見直しの資料としています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人の状態やご家族の意向に配慮しながら臨機応変に対応できるように、スタッフも柔軟に対応することに日々努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の図書館の利用、地域の行事への参加、また公園への折々のお花見学会、農園活動など、ご本人が積極的に参加できる機会を捉えて、支援に努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	施設の協力医の往診のほか、必要に応じて、ご本人やご家族の希望に添った受診や通院への対応を行っています。	本人・家族の了解を得て全員が協力医療機関・歯科医をかかりつけ医としています。週1回訪問看護師が健康チェックをしています。専門医の受診は家族が同行し困難な場合は職員が対応し、受診結果は支援経過記録に記入し情報の共有を図っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週に一度、訪問看護師に日常の個々の状態や変化を報告書し、健康管理、医療面での相談、助言、対応を行って貰っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関への情報提供をしっかりと行い、またご家族とも回復状態やご本人の様子について情報交換をしながら、速やかな退院支援に結びつくよう支援しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご本人やご家族の意向を踏まえ、医師、看護師、介護職員が連携を取りながら、安心して且つ納得のいった最期を迎えられる様に取り組んでいます。	入居時に「重度化した場合の対応に関する指針」を説明し同意を得ています。看取りの実績はまだありませんが、家族、医師、職員と情報を共有しながら重度化にそなえて納得のいく最期を迎えられるよう取り組みをしています。	終末期のケアの要望が増えてきています。より実践的な取組方法などの研修を行い看取り体制の充実を図ることが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	研修や消防署の協力による訓練を通し、救急手当や蘇生術の研修を行っています。全ての職員が落ち着いて緊急時の対応ができるよう繰り返し指導を受けています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	マニュアルの整備、防災研修会、訓練を通して職員全体の意識を高めると共に、訓練時には消防署、自治会のご協力と参加をお願いしております。	夜間想定を含む避難訓練を年に2回実施し、内1回は消防署員が立ち会っています。「非常災害対策計画」が作成され、研修も行っています。職員の連絡網が整備され避難経路に沿って利用者の避難誘導を実施しています。	備蓄品はリスト化して3日分位用意していますが、事業所の社会的役割を認識した拠点として、職員、近隣を考慮した備えなども期待されます。また、家具類の転倒防止等の対策が期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご本人のお話やご家族を通して、お一人お一人の個性や生活しておられた環境などを把握し、日常において特に職員が会話する際には不快な気持ちを抱かせてしまう事がないよう努めています。	人格を尊重し、誇りを損ねないような接遇に気を配っています。気になる言動を見かけた時、職員は「気づきシート」を活用して全職員に周知しています。職員、利用者が不快な気持ちを持つことなく過ごせるように配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	常にご本人のご希望を伺った上で、生活の支援をすることに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	決まった時間に決まった事をするのではなく、各入居者の方のその日、その時間の状態やペースに合わせ、ご希望を伺った上での外出や趣味の活動を支援するようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	個々の支援の必要性に応じて、季節気候の話題の提供、行事や気温などを踏まえた声掛けを行っています。また、出来るだけご本人の意向を尊重し、それに合わせた支援を行っています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	日々の食材を入居者の方と共にチェックしたり、法人運営の農園から定期的に届く野菜を手にしながらか料理を楽しんで頂くように心がけています。	食材は業者からですが、法人運営の農園から新鮮な野菜が時々届きます。入居者は出来る範囲で職員と一緒に調理、配膳、食器洗い、片付けをしてそれぞれの力を発揮し、張合いや自信につなげています。行事食や誕生日には外食を楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	献立の栄養バランスに配慮し、個々の摂取量を残食糧から大まかに把握することに努めています。水分摂取量については、午前中、午後3時まで、一日終了時と云うように正確に把握して、補水の提供を含めて管理するようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後には必ず口腔ケアへの誘導を行い、個々の必要性に応じて、職員が必ず声掛け、見守り、介助を実施しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄記録表をもとに、時間が空いている場合には尿意が無い時にも無理のない誘導を心掛けています。便意が無い場合にも同様にトイレへお誘いしています。それぞれの必要に応じた、見守り、一部介助、全介助を行っています。	個々に合わせた介助をしています。オムツやパットの使用は職員同士が検討して決めています。排泄記録表やサインを把握し羞恥心に配慮した誘導を心掛けています。トイレまでの歩行やズボンの着脱など出来ることは自分でいい自立に向けた支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	日中の排泄記録の確認、日中から夜勤帯への排泄記録の確認は徹底して行っています。訪問診療医と連携し、個々の排泄パターンを把握した下剤の調整を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴はリラックスできる楽しい時間であるように個々の好みに応じた浴室、室温、湯温などに配慮しています。また、異性介助を好まない入居者の方には配慮をするよう、入浴担当などの工夫をしています。	週に2回、個々の状態に合わせて機械浴、一般浴、シャワー浴を楽しんでいます。職員との会話を楽しんだり入浴剤を使用するなどくつろいで入浴ができるように配慮しています。異性介助を好まない入居者には同性介助での対応をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々に合わせた生活支援は出来ていると思います。昼夜逆転に近い入居者の方には、しっかり夜間に睡眠がとれるように、日中の活動などを工夫する努力をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員は診療情報と処方箋に添って正確な把握をしていますが、ご本人が薬の必要性を理解できていない場合があるため、コミュニケーションが取りづらいことがあります。常に正確な服薬を実施し、確認するよう努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居者様ができるところはご自身で行って頂き、見守りを行っております。嗜好品は個別に用意しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常では職員がマンツーマンで散歩・外出をしています。年に数度は減多に行けない場所へドライブするなど心掛けています。	日常的に近隣の散歩、ドラッグストアにおやつや菓子の買い物に行っています。定期的に図書館に行く入居者の送迎をしています。家族の協力を得て墓参りに行く入居者もいます。花見やあじさいを見にドライブをすることもあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個々の管理が難しい入居者の方については、事務所のお預り金として管理しています。お買い物＝レク（楽しみ）として職員と一緒に買い物に出掛けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人のご希望で電話が掛けられるようにフロアの電話機をお使い頂いています。他の入居者の方々への配慮やプライバシーの問題もあるので、通話は居室内ですて頂くようお願いしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関、フローア、廊下等共用空間は毎朝清掃し、居室、浴室、洗面所、トイレは常に清掃と消毒を行って清潔で過ごしやすい環境作りを心掛けています。また、食堂フロアには入居者の方と一緒に作成した季節の飾り付けを行い、玄関外では季節の花々を育てて楽しんでいます。	清潔で過ごしやすい環境を心掛けて清掃や消毒をしています。入居者も一緒にできる範囲で清掃の手伝いをしています。湿度、温度管理は入居者の様子を見ながら職員が行っています。玄関外のプランターで季節の花々を育てています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者の方々の性格などに配慮し、また、気の合う人、合わない人のコミュニケーションなどを注意深く観察して状況に合わせた食卓の席替えを行っています。ソファなどの場所も時折移動しながら飽きない心地よい空間作りを工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	定期的に居室に伺って、ご本人と一緒に衣類や調度品の整理整頓に努めています。物品の移動や処分についてはご本人やご家族の意向を確認し、必ず了解を頂いたうえで行っています。	エアコン、照明、クロゼットが備え付けとなっています。思い出のある使い慣れた家具や写真を飾り、心地よく過ごせるように工夫をしています。居室担当を決めて、掃除や衣類の整理整頓は入居者の意向を確認しながら一緒に行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内は入居者の生活の場であることを常に自覚し、家事、イベントの作品作りや飾り付けは入居者の方々の意向を大切にしています。どの様に説明して理解頂くかに配慮しながら、無理や混乱を避け、安全を心掛けて見守り、手伝いを行う様にしています。		

事業所名	アクア淵野辺グループホーム
ユニット名	2階ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	実施できています。毎日朝礼で唱和し、職員、管理者ともに実践に繋がられています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域における年中行事への参加、施設行事へのご招待を通して積極的な交流を行っています。また、自治会の活動への参加や回覧板などを利用して、常に開かれた施設として情報提供に努めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	施設パンフレットはすぐに目に入る場所に置き、問い合わせに対してはわかり易い言葉で説明をしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	実施できています。運営推進会議には地域代表を含め幅広い方々との意見交換を行う事を大切に、頂いたご意見をしっかり受け止めて日常の活動に活かしています。2020年に入りコロナウィルス感染拡大防止の観点から書面会議で実施しています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	問題解決のため、疑問点がある際には福祉基盤課あるいは高齢・障害者相談課の方へご連絡を取り、ご指導を頂いています。生活保護の方は生活支援課と連携を図っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	講習会や勉強会へ参加し、学んだ情報や知識は施設内での職員研修会で共有しています。拘束は犯罪であるという認識の下、日々ケアに取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止については定期的に施設内研修を行っています。また虐待につながる恐れのある不適切なケアについても施設内で話し合い情報共有できる様努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	支援を必要とされる利用者様の状態やご様子を見過ごしてしまうことのないように、高齢・障害者相談課の担当者の方々へ相談し、昨年からかけ3名の入居者様の成年後見人が決定しました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	難しい内容も包括されているので、誤解を生じない様に納得がいくまでお話しさせて頂いています。また、必要に応じて専門部署の担当より、時間を掛けてご説明しご理解頂けるよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご面会のためお立ち寄り頂いた際あるいは家族会の機会を利用して忌憚ないご意見を伺い、研修・勉強会に反映させて職員共通の認識を持つことに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のフロアー会議では、前以て全員から意見を寄せてもらい検討をし、リーダー会議に上がった項目については職員へのフィードバックを行っています。常に議事録を開示しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者は個々の職員とのコミュニケーションを図り、定期的あるいは必要に応じた面接を行って、職場での問題や不安の解消に努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	テーマを決めた施設内研修は月に一度行っています。また、施設外の研修も本人からの希望があれば可能な限りシフトを調整して参加できるように配慮しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	管理者はグループホーム連絡会に参加し、相互交流にて得た情報を持ち帰り、リーダー会議を通して職員と共有することに努めております。また、お互いに啓発されることを目指して相互訪問の機会を計画しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面談により状態を把握し、ご本人やご家族の要望などを聞き取りして、ご本人には安心して生活して頂ける様に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族の困っている事や不安に耳を傾け、要望や期待に応えられる様に努めています。また、丁寧な受け答えを心掛け、信頼関係を培うことができる様努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人やご家族との話し合いの中で、先ずどのような支援が必要なのかを見極め、サービス内容の調整を行い、提供できる様に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	介助してあげていると云う立場にならない様にご本人への尊厳を持ちつつ、ご本人にとって家族の様な関係になれるように心掛けています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族の方と共にご本人を支え、情報の共有を行っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会制限下でも、玄関の窓越しから元気な様子がわかるように面会をしていただきました。 LINEを使い家族とのTV電話を実施しました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士の相性などもあるので、普段は小さなグループ活動をしています。状態を見て、全員で関わられるような時間を作ることに努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	お手紙やその他の機会をとらえて、ご本人の様子などを伺い、ご家族のお話し相手、ご相談の受け皿になるよう努めています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族やご本人に話を聞き、希望に添えるよう職員同士で情報を共有しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族に情報を提供して頂いたり、本人とお話で今までの生活歴を把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の状態の把握は細部に渡って重要であると認識していますので、ひとつでも普段と違うところがあれば職員で共有し、変化に備えています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日々の中で気付いた事や、ご家族からの要望をお聞きした上で、ご本人に合った計画作成をしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	食事・水分・排泄等の個人記録と、日中・夜間の様子を記録する書類を使用しながら、ケアが適切であるか、日々確認しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人の要望は可能な限り対応しています。通院等は基本にご家族対応ですが、都合がつかない場合には施設対応で行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の図書館を利用したり、地域の公園に数名のグループで散歩やドライブに行き、交流をしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	往診は施設契約の協力医ですが、その他の受診や通院はご本人やご家族の希望するかかりつけ医に行かれる様に対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日常でのちょっとした変化でも見逃さないように注意を払い、訪問看護師に報告、対応してもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、病院への情報提供をしっかりと行い、入院中も病院との情報交換を継続してご本人の負担軽減を図るように努めています。退院の際には、施設内カンファレンスを行い、現状把握と退院後のケアに細心の注意を払って対応しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご本人やご家族の意志が確認出来るように、お話を傾聴しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時の対応の仕方の講習、マニュアルの作成をして、全職員が対応出来るように勉強会を実施しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	マニュアルの整備、防災研修会、訓練を通して職員全体の意識を高めると共に、訓練時には消防署、自治会のご協力と参加をお願いしております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個々の状態・状況に添った声掛け、対応をしています。また、介助を行っている状況を出来るだけ他の方の目に触れないように努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	言葉で伝えられる方でも表情の変化で思いをくみ取ったり、意思表示できない方の反応もしっかりと受け止められる様、密接な関係作りを日頃より心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	「○○しましょう」とか「○○してください」ではなく、「○○は如何ですか?」「どのようにしたいですか?」と、ご本人のお気持ちを優先し、お尋ねする仕方などにも配慮するようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	服装は可能な限り、個々の選択を大切にして過ごして頂ける様、環境作りにも配慮しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理は出来るだけ入居者の方々と一緒にさせて頂いています。この日常の繰り返しで、この方は何が得意で、何が好きなのか?どのようなお料理が得意だったのかなど、話題の提供にも繋がっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	お一人お一人に合わせた水分量や食事量、食形態に配慮し、食器やお箸、スプーン等にも食が進む様に色々と考えて工夫をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後、ご自身で口腔ケアできる方には声掛けと見守りを行い、上手にできない方には介助させて頂いています。入れ歯や歯ブラシ、うがいコップなどの清潔保持に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	ご本人の身体機能に応じて、おむつ、リハビリパンツ等、適切なものを把握しつつ、排泄行動、行為の向上に繋がるケアの検討を重ねています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	自然排便を促す為に、腹部のマッサージや身体を適度に動かすようにし、毎日ラジオ体操を取り入れています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴はリラックスできる楽しい時間であるように個々の好みに応じた浴室、室温、湯温などに配慮しています。また、異性介助を好まない入居者の方には配慮をするよう、入浴担当などの工夫をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中はなるべく活動をして頂くように促しています。また、個々の体調に合わせて日中の休息を取って頂くように配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	お一人お一人に合った服薬の実施方法を行っています。個々の体調を注視して、必要に応じて協力医療機関との連絡をとって、連携を密に図っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居者様ができるところではご自身で行って頂き、見守りを行っております。お願いできそうな部分についてはお手伝いをして頂いて感謝の気持ちをお伝えしています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常では職員がマンツーマンで散歩・外出をしています。年に数度は減多に行けない場所へドライブするなど心掛けています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族よりお金をお預かりし、必要に応じて事務所で管理をさせて頂いています。お買い物の必要がある場合には出金し、ご本人と一緒に買い物を楽しんで頂くように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族や身近な方々に、暑中見舞いや年賀状などを出すお手伝いをし支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有の空間には季節感のある掲示（作品）を、入居者の方々と共に作って飾っています。行事の写真なども飾って、足を止めては楽しんで頂ける様になっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間では個々の食卓の席のほかにソファを置いて利用いただいています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	個人個人の好みを大切にしお部屋作りをお手伝いしています。室内清掃は一緒に行うよう努めています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	それぞれの入居者様ご自身で出来ることは家事にも参加して頂き、職員は近くで見守り、安全には特に配慮しています。		

2020（令和2）年度

事業所名 アクア淵野辺グループホーム

作成日： 令和3年 2月 1日

目標達成計画

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 【課題】 施設での最後を望まれる希望が増えています。ご本人、ご家族が納得のいく最後を迎えられる体制の充実が必要である。	残された人生で本人が望む生活が実現できるよう施設全体で終末期のケアについて学び、理解を深める。	①看取りケアについて理解を深める研修の実施。 ②グループワークによる事例検討会の実施。 ③看護師等医療関係者と連携しケアの方法や留意点を学ぶ研修の実施	12ヶ月
2	35	○災害対策 【課題】 地域社会における役割を認識した拠点としての充実を図ることが期待される。	火災や災害時に備え職員が避難誘導等の方法を身につけるとともに、地域や近隣の住民との協力体制を築く。	①近隣住民や地域の方に声をかけ参加いただき避難訓練を実施する。 ②家具類の転倒防止等の対策実施。 ③防災備蓄品の購入及び管理の継続	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月